

上下関係における日本語学習者の授受補助動詞の習得に関する調査

日本で生活している中国語母語話者と韓国語母語話者を対象に

東京学芸大学大学院教育学研究科国語教育専攻日本語教育コース 朴 錦女

1. 研究目的

本研究では、日本に滞在する韓国語母語話者と中国語母語話者を対象に、授受補助動詞に上下関係を加え、さらに親疎関係によって分類し、それにおける日本語学習者の学習期間と学習環境による習得状況を調査する。また、日本語母語話者にも同じ内容のアンケート調査を行い、授受補助動詞の使用傾向を調査し、日本語学習者と比較を行う。

2. 先行研究

庵(2001)では、日本語には「あげる、やる、くれる、もらう、さしあげる、くださる、いただく」など7つの授受動詞が存在しており、これらの授受動詞は「視点」に基づく制約を持っていると述べている。それに、「私」及び「私の・・・」の形の名詞句で表されるものは「ウチ」、それ以外のものは「ソト」として区別すると述べている。また、庵(2001)では、授受動詞は「てあげる」、「てくれる」、「てもらう」などの形で補助動詞として使われ、恩恵の授受を表し、ものの授受の場合と同様に視点制約が存在すると述べている。

尹(2006.6)では、恩恵の授受方向が「話者 他者」の場合、「～てあげる」の習得は学習環境に影響され、JSL 学習者のほうが JFL 学習者より促進されやすく、恩恵の授受方向が「他者 話者」の場合、受益動詞の習得は学習環境に関わらず、日本語能力の上昇とともに進むと述べている。また、「～てくれる」と「～てもらう」の選択の傾向は、JFL 学習者では日本語の能力によって異なり、日本語能力が低いレベルでは学習環境によって異なり、どのグループも日本語母語話者の間に差があるが、特に、レベルの低い JFL 学習者は「～てくれる」をより多く使い、日本語母語話者の「～てもらう」をより多く使用することと異なると述べている。

尹(2006.12)では、日本国内の日本語学校で日本語を学んでいる韓国語話者と中国語話者を対象に調査を行った結果、授受補助動詞の場合、「～てくれる」の方が「～てもらう」より多く使われていて、また、「～てくれる」と「～てもらう」の使用比率は、日本語能力が低いレベルでは、L1 に影響されないが、日本語能力の上昇とともに「～てくれる」に相当する表現がある韓国語話者より、中国語話者のほうが日本語母語話者の使用状況に(～てくれる<～てもらう)に早く近づく。

3. 調査概要

3.1 仮説

先行研究の結果を踏まえ、以下の3つの仮説を立てた。

母語にかかわらず、授受補助動詞「てくれる/くださる」は「てもらう/いただく」より習得されやすく、学習期間が短いグループでは「てくれる/くださる」を「てもらう/いた

上下関係における日本語学習者の授受補助動詞の習得に関する調査
日本で生活している中国語母語話者と韓国語母語話者を対象に

だく」より多く使い、学習期間が長いグループでは「てもらう/ていただく」を多く使う。

また、学習期間が長いグループでも、日本滞在期間の長期化によって日本語母語話者の使用状況(「てくれる/てくださる」<「てもらう/ていただく」)に近づく。

目上の方が身内である場合、日本語学習期間が短いグループでは、目上に必ず尊敬語を使う韓国語母語話者は「～ていただく」、「～てくださる」を多く使うので、中国語母語話者より習得が遅く、日本語学習期間が長いグループでは、韓国語母語話者と中国語母語話者の習得にはあまり差がない。

3.2 調査対象

調査対象は日本で生活している日本語学習者で、中国語母語話者 20 名、韓国語母語話者 29 名を対象に、アンケート調査を行った。

表 1 学習歴別、母語別の人数

	3年未満	3年～5年	5年以上
中国語母語話者(名)	7	8	5
韓国語母語話者(名)	9	12	8
合計(名)	16	20	13

また、日本語母語話者と日本語学習者を比較するために日本人母語話者 20 名に対しても日本語学習者と同じ内容のアンケートで調査を行った。

3.3 調査方法

日本語学習者にアンケート調査を行うが、アンケートの内容と形式は先行研究尹(2006.6)のアンケートを参考にして、絵を見て文を作る文産出テストを用いる。アンケートの問題は全部で 22 問である。アンケート内容は、恩恵の授受方向によって、恩恵の授受方向が話し手から他人に向かう場合(以下「話者 他者」と表示)と他人から話し手に向かう場合(以下「話者 他者」と表示)に分ける。さらに、話者と他者の関係によって対等関係、他者が目上の人で身内でない場合(以下「上下関係/ソト」と表示)、他者が目上の人で身内である場合(以下「上下関係/ウチ」と表示)に分ける。その内訳は以下のとおりである。

	対等関係	上下関係/ウチ	上下関係/ソト
話者 他者	2問	3問	4問
話者 他者	4問	4問	5問

4. 結果と考察

調査結果を本研究の仮説に沿ってまとめる。

4.1 学習期間による「～てくれる/～てくださる」、「～てもらう/～ていただく」の選択状況

学習期間による選択状況を調べるために、中国語母語話者(以下 C)と韓国語母語話者(以下 K)を学習期間によって3年未満のグループ(以下「短」)、3年から5年グループ(以下「中」)、5年以上(以下「長」)のグループに分けた。日本語母語話者は以下 N と表示する。

「～てくれる/～てくださる」と「～てもらう/～ていただく」の使用状況は予想と違って、両母語話者とも、学習期間が短いグループでも「～てもらう/～ていただく」をより多く使われて

いる。韓国語母語話者においては、学習期間が長くなるにつれて、「～てくれる/～てくださる」の使用は減り、「～てもらう/～ていただく」の使用が増えている。中国語母語話者においては、学習期間が長くなるにつれて「～てもらう/～ていただく」の使用は増えるが、「～てくれる/～てくださる」の使用率はあまり変わらず、目上の方が身内でない場合は、学習期間が長くなるにつれて、「～てくれる/～てくださる」の使用率が上がっている。

表2 学習期間による中国語母語話者の選択状況

	対等 関係			上下 ソト			上下 ウチ		
	くれる	もらう	その他	くれる/ 下さる	もらう/ 頂く	その他	くれる	もらう	その他
C短	29%	50.00%	21.43%	22.86%	51.43%	25.71%	25.00%	53.57%	21.43%
C中	40.63%	28.13%	31.25%	45.00%	27.50%	27.50%	21.88%	43.75%	34.38%
C長	25.00%	65.00%	10.00%	36.00%	64.00%	0.00%	25.00%	70.00%	5.00%
N	23.75%	68.75%	7.50%	19.42%	76.37%	4.21%	13.75%	81.25%	5.00%

表3 学習期間による韓国語母語話者の選択状況

	対等 関係			上下 ソト			上下 ウチ		
	くれる	もらう	その他	くれる/ 下さる	もらう/ 頂く	その他	くれる	もらう	その他
K短	33.33%	52.78%	13.89%	40%	55.56%	4.45%	19.44%	50%	30.56%
K中	8.33%	75%	16.67%	11.67%	86.67%	1.67%	6.25%	81.25%	12.50%
K長	12.50%	84.38%	3.13%	25%	75%	0%	12.50%	81.25%	6.25%
N	23.75%	68.75%	7.50%	19.42%	76.37%	4.21%	13.75%	81.25%	5%

4.2 滞在期間による「～てくれる/～てくださる」、「～てもらう/～ていただく」の選択状況

滞在期間による「～てくれる/～てくださる」、「～てもらう/～ていただく」の選択状況を調べるために、両母語話者の学習期間が中のグループと長のグループを対象に滞在期間によって、2年未満と2年以上の二つのグループに分けた。

表4 滞在期間による中国語母語話者の選択状況

	対等 関係			上下 ソト			上下 ウチ		
	くれる	もらう	その他	くれる/ 下さる	もらう/ 頂く	その他	くれる	もらう	その他
C2年未満	50%	25.00%	25.00%	51.43%	28.57%	20.00%	32.14%	46.43%	21.42%
C2年以上	16.67%	62.50%	20.83%	30.00%	56.67%	13.33%	12.50%	62.50%	25.00%
N	23.75%	68.75%	7.50%	19.42%	76.37%	4.21%	13.75%	81.25%	5.00%

表5 滞在期間による韓国語母語話者の選択状況

	対等 関係			上下ソト			上下 ウチ		
	くれる	もらう	その他	くれる/ 下さる	もらう/ 頂く	その他	くれる	もらう	その他
K2年未満	4.55%	77.27%	18.18%	7.27%	92.73%	0.00%	4.55%	84.09%	11.36%
K2年以上	16.67%	80.56%	2.77%	28.89%	68.89%	2.22%	13.89%	77.78%	8.33%
N	23.75%	68.75%	7.50%	19.42%	76.37%	4.21%	13.75%	81.25%	5.00%

中国語母語話者は、全体として、滞在期間が短いグループでは「～てくれる/～てくださる」の使用率が高く、滞在期間が長くなるにつれて、「～てもらう/～ていただく」の使用率が増え、日本人の使用傾向に近づくのである。韓国語母語話者は、滞在期間が短いグループでも「～てもらう/～ていただく」の使用率が圧倒的に多い。上下関係/ソトと上下関係/ウチの場合、滞在期間が長くなるにつれて、予想とは反対に「～てもらう/～ていただく」の使用率は減り、「～てくれる/～てくださる」の使用率が増えている。対等関係の場合、滞在期間が長くなるにつれて、「～てもらう/～ていただく」と「～てくれる/～てくださる」の使用率は両方増えているが、正解率が上がったことから、その使用状況はあまり変わらないと思われる。以上のことから、「～てくれる/～てくださる」と「～てもらう/～ていただく」の使用状況は、中国語母語話者は日本滞在期間

上下関係における日本語学習者の授受補助動詞の習得に関する調査
日本で生活している中国語母語話者と韓国語母語話者を対象に

の影響を受けるが、韓国語母語話者の使用状況は日本滞在期間の影響をあまり受けないと思われる。

4.3 学習期間による授受補助動詞の習得状況

表5 話者 他者の場合、学習期間による得点状況

	対等関係		上下関係/ソト		上下関係/ウチ	
	平均	正答率	平均	正答率	平均	正答率
C短7名	2	100%	3.86	96.50%	2	66.67%
C中8名	1.75	88%	3.75	93.75%	1.75	58.33%
C長5名	2	100%	4	100%	2.2	73.33%
K短9名	2	100%	3.33	83.33%	2.22	74.07%
K12名	1.92	95.83%	3.58	89.58%	2.5	83.33%
K長8名	1.75	87.50%	4	100%	2.38	79.17%

表6 話者 他者の場合、学習期間による得点状況

	対等関係		上下関係/ソト		上下関係/ウチ	
	平均	正答率	平均	正答率	平均	正答率
C短7名	3.14	78.57%	4	80%	3.14	78.57%
C8名	2.63	65.63%	3.63	72.50%	2.63	65.63%
C長5名	3.6	90%	5	100%	3.8	95%
K短9名	3.44	86.11%	4.67	93.33%	2.78	69.44%
K12名	3.33	83.33%	4.92	98.33%	3.5	87.50%
K長8名	3.88	96.88%	5	100%	3.75	93.75%

授受方向が話者から他者の場合、両母語話者の日本語学習期間が3年未満のグループと5年以上のグループを比較すると、全体的に日本語の学習期間が長くなるにつれて正解率が上がる。韓国語母語話者は、対等関係においてはまったく反対の結果が出た。また、目上の方が身内の場合、両母語話者の正解率が一番低いことが分かった。目上の方が身内でない場合、予想どおり学習期間が短いグループでは、中国語母語話者の方が韓国語母語話者より正解率が高い。しかし、目上の方が身内の場合、予想とは違って、学習期間に関係なく、韓国語母語話者の方が中国語母語話者より正解率が高い。

授受方向が他者から話者の場合、学習期間が3年未満のグループと5年以上のグループを比較すると、両母語話者とも学習期間が長くなるにつれて、正解率が上がる。目上の方が身内でない場合、予想どおり、学習期間が長くなるにつれて正解率も上がるが、韓国語母語話者の方が中国語母語話者より全体的に正解率が高い。目上の方が身内の場合、予想とおり、学習期間が短いグループでは、中国語母語話者が韓国語母語話者より正解率が高く、学習暦が長いグループでは、両母語話者の正解率はあまり変わらなかった。

但し、中国語母語話者の学習期間が3年から5年のグループにおいて、正解率一旦下がる結果も無視できない。

今後は、日本語学習者の日本語能力を適切に測定し、上下関係における授受補助動詞の習得に日本語能力がどのような影響を与えるかについて調査したい。

引用・参考文献

庵 功雄(2001) 『新しい日本語学入門 - ことばのしくみを考える』アルク pp.114-126
 尹 喜貞(2006.6) 「授受補助動詞の習得に日本語能力、及び学習環境が与える影響 韓国人学習者を対象に」『日本語教育 130号 2006年7月』日本語教育学会 pp.120-129
 尹 喜貞(2006.12) 「日本語学習者の授受動詞の習得における母語の影響」『第17回第二言語習得研究会 全国大会予稿集』 第二言語習得研究会 pp.87-88